

## 学校経営

### ガバナンス改革を進め、総合的マネジメントを実現する

#### 【ビジョン】

教育・研究のビジョンを実現するためには、適切なガバナンス（意思決定の仕組み）と質の高いマネジメントが必須条件となる。

多様な価値がせめぎ合う学校法人におけるガバナンスには、適正な手続き、過程の透明性、長期的な戦略、全体最適となる合理性、決定までの迅速さ、そして責任の明確化など高度な機能が求められる。現在の関西学院のガバナンスは歴史を通して成熟してきたものであるが、環境変化が急速に進むなかで継続的に改革を進める必要がある。

学院は 2013 年度のガバナンス改革（通称「たすきがけ」）によって「経営と教学の共同体制」を実現したが、それはあくまで手段であり、目的はマネジメントの高度化にある。めざすべきマネジメントとは、経営資源を最も効果的・効率的に活用して目標を実現することであり、「PDCA サイクル」の質を高めることである。

PDCA サイクルの質は Plan（計画）そのものの質にかかっている。学院は新基本構想（2009～2018）に次ぐ将来構想として、創立 150 周年の 2039 年を見据えた未来予測や外部・内部環境の分析に基づいて超長期ビジョン（ありたい姿・あるべき姿）と長期戦略を描き、その上で中期総合経営計画を策定する。同計画は、関西学院大学と各学部・研究科の教学計画の連動、大学と各学校の教学計画の連動、それら学院全体の教学計画と財政・人事・建設・情報化等の基盤計画との連動によって、経営資源を最も有効に活用する「総合的マネジメント」を実現する。同時に、教学計画は期間を 3 年に縮めるなどして、激しい社会変化に対応できる柔軟で動的なマネジメントシステムを開発する。

また、教学計画への積極的な投資と強固な財政基盤の両立、そのための新規事業の財源確保という最も困難な問題には全学が一体となって取り組み、継続的な発展が可能な仕組みを開発することが必要である。

その他、PDCA サイクルを効果的に循環させるための重要課題として、ビジョンにおける最上位の成果指標（Key Performance Indicator＝KPI）<sup>21</sup>の設定・開発、特に学修成果の検証方法の確立、客観的データに基づくマネジメント（Evidence-based Management）とそれを支える IR（Institutional Research）機能の強化、そのための情報環境整備などを着実に進める。

---

<sup>21</sup> KPI とは、一般に「重要業績評価指標」と訳され、戦略計画の実現に向けた指標のうち最も重要なものを指す。